

# 日本経営倫理学会 平成29年度総会

## 総会式次第

### 【議 題】

- 議題1. 平成28年度学会活動状況報告の件
- 議題2. 平成28年度学会決算報告の件
- 議題3. 監査報告の件
- 議題4. 平成29年度学会活動計画（案）審議の件
- 議題5. 平成29年度学会予算（案）審議の件
- 議題6. 会則変更の件（案）
- 議題7. 役員改選の件（案）

以上

日時：平成29年6月24日（土）13時00分-14時00分  
場所：慶應義塾大学三田キャンパス（東京・港区）

## 議題 1. 平成 28 年度学会活動状況報告の件

### (1) 平成 28 年度年次総会開催の件

平成 28 年 6 月 18 日（土）、東北大学川内南キャンパス（宮城・仙台）に於いて平成 28 年度年次総会を開催した。

総会出席正会員数 58 名、委任状 174 名  
（議決人員 126 名／正会員総数 378 名／総会員数 440 名）

#### 総会議題

- 議題 1. 平成 27 年度学会活動状況報告の件
  - 議題 2. 平成 27 年度学会決算報告の件
  - 議題 3. 監査報告の件
  - 議題 4. 平成 28 年度学会活動計画審議の件（案）
  - 議題 5. 平成 28 年度学会予算審議の件（案）
  - 議題 6. 会則変更の件（案）
- 上記が審議され、原案通り決定された。

### (2) 理事会開催の件

学会の業務運営に関する重要事項を審議決定する為、理事会を下記のごとく開催した。  
（平成 28 年）

- 第 150 回理事会 4 月 23 日（土） 平成 28 年度年次総会開催準備の件、他
- 第 151 回理事会 9 月 17 日（土） 新規研究部会立ち上げの件、他
- 第 152 回理事会 11 月 26 日（土） 論文原稿執筆要領改訂の件、他

（平成 29 年）

- 第 153 回理事会 1 月 26 日（土） 学術振興・催事準備金支出に関する規程の件、他

### (3) 研究発表大会開催の件

第 24 回研究発表大会を平成 28 年 6 月 18 日（土）-19 日（日）東北大学川内南キャンパス（宮城・仙台）において東北大学大学院経済学研究科と共催した。前年度に引き続き二日間にわたっての開催であった。統一論題「地方創生と経営倫理」について当学会より依頼した有識者による統一論題シンポジウムを行った。また 29 本の研究発表を 3 会場で 2 日間に分けて行った。

### (4) 研究交流例会等開催の件

学会員の研究情報の交流と学会活動の理解を深める交流例会を前年度に引き続き下記のごとく開催した。

\* 第 92 回研究交流例会（平成 28 年 4 月 23 日）

- 1. 「フォルクスワーゲン社の排ガス不正-ドイツ同族企業統治の限界」

横浜国立大学名誉教授 吉森 賢 氏

- 2. 「高等教育における「倫理」の位置づけと

「ビジネス倫理」への連続性について考える」

当学会会員 武谷 香（淑徳大学兼任講師）

## 議題 1. 平成 28 年度学会活動状況報告の件

\* 第 93 回研究交流例会 (平成 28 年 9 月 17 日)

「倫理の社会的効用」 京都大学名誉教授、公立鳥取環境大学名誉学長 加藤尚武 氏

\* 特別講演会 (平成 28 年 10 月 15 日)

「ドイツにおける経営倫理学の歴史」

ミュンヘン工科大学教授・博士 クリストフ・リュトゲ (Christoph Lütge) 氏

\* 【JABES 協賛】特別講演会 (平成 28 年 11 月 26 日)

「日本社会の未来と働き方改革」

衆議院議員 野田聖子 氏

\* 新年会 (平成 29 年 1 月 28 日)

「年頭所感」

当学会会長 梅津光弘 (慶應義塾大学准教授)

\* JABES 特別講演会 (平成 29 年 3 月 22 日)

「サラヤの企業理念と CSR」

当学会法人会員 更家悠介氏 (サラヤ株式会社代表取締役社長)

### (5) 究部会活動報告の件

各研究部会の登録メンバー、研究活動報告および今後の計画に関し別紙 1 にて報告。

部会長および登録メンバー数 (平成 29 年 3 月末現在)。

#### 1. 理念・哲学研究部会

部会長：村山 元理 氏 登録メンバー数：20 名

#### 2. 企業行動研究部会

部会長：勝田 和行 氏 登録メンバー数：67 名

#### 3. ガバナンス研究部会

部会長：今井 祐 氏 登録メンバー数：25 名

#### 4. 実証調査研究部会

部会長：福永 晶彦 氏 登録メンバー数：11 名

#### 5. CSR 研究部会

部会長：蟻生 俊夫 氏 登録メンバー数：80 名

#### 6. 経営倫理教育研究部会

部会長：岡部 幸徳 氏 登録メンバー数：22 名

#### 7. ESG 投資研究部会

部会長：小方 信幸 氏 登録メンバー数：17 名

### (6) 地方組織活動の件

関西および中部各地区研究部会の登録メンバー、研究活動報告および今後の計画に関し別紙 1 にて報告。

研究部会長、登録メンバー数 (平成 29 年 3 月末現在)。

#### (1) 関西地区研究部会

部会長：吉川 吉衛 氏 登録メンバー数：約 25 名

## 議題 1. 平成 28 年度学会活動状況報告の件

(II) 中部地区研究部会

部会長：蕎麦谷 茂 氏 登録メンバー数：14名

(7) 学会報発行の件

学会の活動状況伝達のため学会報No.70第73号(平成28年7月30日発行)、No.71第74号(平成28年11月21日発行)、No.72第75号(平成29年3月31日発行)をそれぞれ発行し会員各位に配布した。

(8) 学会誌発刊の件

東北大学で開催された第24会研究発表大会での発表を中心に、論文21本、研究ノート2本、および論説3本からなる『日本経営倫理学会誌第24号』を平成29年2月に発刊した。

(9) 学生の経営倫理意識向上の支援の件

平成27年度より、大学間での学生との研究交流プロジェクトであるCSR構想インターゼミナールを後援。詳細は別紙2にて報告。

(10) 年会費自動振替への移行の件

平成22年度より、会員の年会費の支払い忘れや事務局の年会費請求作業軽減のため自動振替制度を導入し、会員へは引き続き自動振替への切換を随時お願いしている。

以上

【別紙 1】

2016年(平成28年)度研究部会報告

(理念哲学研究部会)

研究部会 メンバー	山本毅、宇佐神正明、遠藤梨栄、西藤輝、佐藤陽一、市川覚峯 辻井清吾、長塚皓右、西村晋、新川信洋、青木崇、古山英二、 望月雅和、緒賀正浩、佐藤 聡彦、伊東久美子、井上真由美、*村山元理、速水智子 増澤洋一 (*印は会長、年度末会員数計 20名)
研究部会 設立年月	1994(平成6)年3月
平成28年度 研究活動 報告 (第 207回例会 ～ 第217 回例会)	<p>例会の会場: 学士会館(4月～12月)、企業家ミュージアム(1～3月)</p> <p>4月: 昨年度の総括・今年度の運営方法。宇佐神「金子武蔵『倫理学概論』(1957年)の示唆」7名参加</p> <p>5月: 宇佐神:「経営倫理」定義の試みの検討。8名参加</p> <p>6月: 宇佐神「20世紀後半の精神分析学の成果と和辻・金子の倫理学の意義」5名参加</p> <p>7月: 宇佐神「20世紀における良心論」など、村山「古山ペーパー」5名参加</p> <p>8月: 台風にて中止</p> <p>9月: 佐藤、古山、井上らの話題提供とディスカッション。8名参加</p> <p>10月: 村山「古山英二氏のライフヒストリー(再)」、「佐藤氏のライフヒストリー」、辻井:「懐徳堂」概要、9名参加</p> <p>11月: 村山「K銀マン・佐藤陽一さんの人生と哲学(後半)」、古山「εθζω (ethizo)=moralis=customs カントの「義務論」を巡っての考察—法学の基礎としての倫理学—」6名参加</p> <p>12月: 辻井「懐徳堂」修正、古山「ライフヒストリー」修正。9名参加</p> <p>1月: 市川覚峯(日本経営道協会代表・千二百日行者)からの講演 9名参加</p> <p>2月: 宇佐神『限界費用ゼロの社会—モノのインターネット&gt;と共有型経済の台頭』(ジェレミー・リフキン著、柴田裕之訳、NHK出版、2015年)の紹介。村山「南部塾での精神修養—学生を引率して10年」8名参加</p> <p>3月: 辻井「石門心学」、市川覚峯:「コークの時代を拓いた高梨仁三郎」6名参加。</p>
研究成果	<p>2016年度の成果</p> <p>1)『21世紀の倫理』出版に向けて、目次の改定、原稿のための発表を繰り返し、以下の事項が主なる成果。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 会員がそれぞれのテーマから「21世紀の経営倫理」への原稿を作成</li> <li>② 21世紀における人類の課題とそこにおける日本の役割や地位について考察を深めた。</li> <li>③ 宇佐神: 倫理学とは何かを金子倫理学に遡って思考し直した。</li> <li>④ 佐藤、古山のライフヒストリーの原稿を作成・検討</li> <li>⑤ 辻井の懐徳堂、石門心学の原稿の作成・検討</li> <li>⑥ 企業家ミュージアムを新たな例会会場として、市川氏の知見からも刺激を受ける。</li> </ul>
平成29年度 研究活動 予定	<p>2017年度の研究活動予定</p> <p>一、上記『21世紀の&lt;経営の倫理&gt;』のための原稿を年度末までに集め、出版化へ</p> <p>1) 完成度の高い研究成果の原稿化 各論のテーマを確定するに先立って、理念哲学部会の課題を踏まえたものとして、内容や論述等の完成度を各人の努力と、相互的検討を通して高める必要がある。</p> <p>二、経営倫理の主体と範囲の再確認</p>

## 平成28年度研究部会報告

(企業行動研究部会)

研究部会 メンバー  (順不同)	秋山和久 大泉英隆 栗栖徳雄 佐久間健 田村尚子 野田賢介 古山英二 峰内謙一 川村正彦	安藤 顕 岡田佳男 桑山千恵子 佐藤陽一 出口純輔 長谷川忠 増岡泰彦 宮川 準 永井郁敏	石川英男 岡本伊万里 剣持 隆 柴柳英二 中島悟史 比賀江克之 増澤洋一 宮澤直幸	井上真由美 加藤隆一 小池裕子 鈴木啓充 年那須一貴 樋口晴彦 増淵隆史 山口謙吉	岩倉秀雄 河口洋徳 西藤輝 瀬名敏夫 西井寿里 肥後文雄 松尾 實 山中 裕	上原利夫 北川則道 斎藤千恵美 潜道文子 西村秀美 菱山隆二 松本邦明 山本 洋	遠藤淳一 木下博生 酒井恒雄 高橋太一 根城泰 平塚 直 丸山千賀子 横館久宜	遠藤梨栄 熊本一夫 櫻井功男 武谷 香 野瀬哲郎 古谷由紀子 水野雄史 吉村典久
	*勝田和行 (*印 部会長 計67名)							
平成28年度 研究活動	4月 (13名)	1 ヘルプライン(内部通報窓口)の現状と課題(河口) 2 “ガバナンス”ブーム、何か変?(峰内)						
	5月 (13名)	1 国際カルテルについて(佐久間) 2 パナマ文書、東芝問題資料について(佐藤)						
	6月 (18名)	1 パナマ文書について(佐藤) 2 三菱自動車データ改ざん(徳山)						
	7月 (17名)	1 「同一労働同一賃金」と非正規雇用の均等待遇(肥後) 2 書評「トーマス・セドラチェク『善と悪の経済学』東洋経済新報社」(峰内)						
	8月 (15名)	1 倫理独立第三者委員会の提案(佐久間) 2 東洋ゴム工業の性能偽装事件の事例研究(樋口)						
	9月 (15名)	1 東洋ゴム工業に関する報告(北川) 2 倫理独立第三者委員会についての意見交換(佐久間) 3 マネーゲームと日本企業(虚業と実業)(野瀬)						
	10月 (22名)	1 フォルクスワーゲンスキャンダルからの決別(西藤) 2 日本型の経営倫理教育の在り方と文部科学省の教育改革について(増澤)						
	11月 (18名)	1 「もったいない」と「なりすまし」のパラドックスー日本の不祥事の深層を探る(北川) 2 文系のための技術者倫理研究会(BERC)でのアンケート結果について(平塚) 3 PRIDE転じてARROGANCEとなるー三菱重工、豪華客船で大幅減益(古山)						
	12月 (18名)	1 プレシングュラリティと暫定最適解 ー意思決定支援としてのエグゼクティブ・コーチングの役割(永井) 2 “Corporate Governance”ブーム、何か抜けているのでは?(峰内)						
	1月 (16名)	1 企業不祥事と組織風土改革ー全酪連と雪印乳業のケースを踏まえて(岩倉) 2 創設70周年を迎えた経済同友会(西藤)						
	2月 (19名)	1 神道と日本人の生活、企業活動との関係について(峰内) 2 過重労働・過労死を考える(勝田)						
	3月 (11名)	1 プレミアム・フライデーについて語る:提案(上原)						
研究成果	<p>当研究部会は、経営実務経験者が多く、実社会における具体的事例について倫理学の視点と経営的観点から幅広く考察・研究できるのが特色である。</p> <p>今年度は、パナマ文書(タックスヘイブン)、国際カルテルやフォルクスワーゲン、三菱自動車の燃費偽装などの企業不祥事が相次ぐとともに、コーポレートガバナンスコードへの対応、働き方改革等が経営課題となる中で、具体的事例を中心に自由な課題設定と闊達な議論を行った。</p> <p>研究成果は当学会の研究発表大会等での発表、論文作成、BERCとの連携活動に反映されている。なお、月例研究部会は各月1回、計12回開催された。</p>							
平成29年度 研究活動 予定	<p>本年度は、続発する企業不祥事について新たな知見に基づく検討を行うとともに、新たな国際情勢、経営環境の下で、コーポレートガバナンスを含めた企業経営のあり方、経営倫理、CSR・ESG課題について幅広く考察、研究する予定である。</p> <p>また、昨年度に引き続き、各月の発表者・テーマを事前に提示するとともに、資料を事前に配布することによって、論点の明確化と議論の深化を図ることとしている。</p>							

## 平成 2 8 年度研究部会報告（ガバナンス研究部会）

研究部会 メンバー	今井祐*、井上泉、板垣隆夫、上原利夫、大関誠、荻野博司、小方信幸、岡田佳男、河口洋徳、勝田和行、島村昌孝、嶋多明夫、高橋榮一、中嶋康雄、永井秀哉、永井郁敏、中村眞、浜辺陽一郎、林順一、日向浩幸、古谷由紀子、逸見彰彦、宮澤直幸、山本正、山脇徹、 (計 2 5 名) *は部会長を表す
部会設立	平成 7 年 (1995) 3 月
平成 2 8 年度研究 活動報告	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部会ミッション：「経営倫理の観点から、組織統治（CGを含む）について監査の視点を含め研究し、健全な組織・企業経営に資することを使命とする。」</li> <li>2. 部会基本テーマ：「守りのガバナンス」と「攻めのガバナンス」は車の両輪。</li> <li>3. 個別テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 8 年 4 月：今井祐「東芝事件と守りのガバナンス」（その 1） 井上泉「中央高速道路笹子トンネル事故と経営倫理」</li> <li>・ 2 8 年 5 月：今井祐「東芝事件と守りのガバナンス」（その 2） 山本正「攻め」のコーポレートガバナンス～監査・監督の「革新」を考える</li> <li>・ 2 8 年 6 月：浜辺陽一郎「取締役の会社に対する責任に関する近時の判例動向」 上原利夫「議会運営の一院制と二院制」</li> <li>・ 2 8 年 7 月：河口洋徳「公益通報者保護制度の改革について」 古谷由紀子「持続可能な社会に向けて、企業の消費者教育の責任と可能性を考える」</li> <li>・ 2 8 年 9 月：荻野博司「渋沢栄一とガバナンス」 中嶋康雄「真の ROE 経営（その 2）」</li> <li>・ 2 8 年 10 月：林順一「英国の年次報告書における開示内容の分析」クライシス・コミュニケーションとサクセッション・プラン 井上泉「経営構造の比較—どの機関設計が優れているか」</li> <li>・ 2 8 年 11 月：嶋多明夫「現代企業人の基層的規範意識と仏教（その 1）初期」 大関誠「新 COSO の適用方法について」</li> <li>・ 2 8 年 12 月：浜辺陽一郎「次の会社法改正に向けての論点整理」 板垣隆夫「内部統制における過剰対応と二つの内部統制制度の統合」</li> <li>・ 2 9 年 1 月：勝田和行「コーポレートガバナンス（コード）にかかわる実務的課題」 日向浩幸「福祉サービスにおける危機管理に関する研究」</li> <li>・ 2 9 年 2 月：中嶋康雄「M &amp; A に見る日本企業の経営力」 岡本展幸「アングロサクソン型コンプライアンスと日本型コンプライアンス」</li> <li>・ 2 9 年 3 月：山脇徹「監査役を果たすべき役割とその実践」 小方信幸「株主行動としてのエンゲージメント—欧米主要公的年金基金の事例」</li> </ul> </li> </ol>
研究成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 28 年 6 月の研究発表大会（東北大学）にて 5 人が上記関連の研究成果を発表した。また、5 人の論文が学会誌に掲載され、内 1 人は今回初めての参加である。</li> <li>2. 井上泉発案により「平成 27 年度年報」を作成し、19 件の研究成果を収載。学会より 5 万円の支援をいただく。多謝。</li> <li>3. 今井祐が『東芝事件と守りのガバナンス』を、また、板垣隆夫が『監査役の覚悟（共著）』を著し、日経読書欄等で好評を受ける。各々学会図書に寄贈。</li> <li>4. 浜辺陽一郎客員部会員の「次の会社法改正に向けての論点整理」は大変参考になった。パブリック・コメントを部会として発信することを検討する。</li> </ol>
平成 2 9 年度研究 活動予定	次ページ（ガバナンス研究部会「平成 2 9 年度研究計画」）参照

## ガバナンス研究部会 「平成29年度研究計画」

ガバナンス研究部会 部会長

### 1. ガバナンス研究部会ミッション（使命）

「経営倫理」の観点から、組織統治（コーポレート・ガバナンスを含む）について  
監査の視点を含めて研究し、健全な組織・企業経営に資することを使命とする。

2. 平成29年度研究発表大会 ①日時：H29年6月24日（土）～25日（日）②場所：慶應義塾大学三田キャンパス ③統一論題：「経営倫理の過去・現在・未来」

### 3. 平成29年度ガバナンス研究部会の基本テーマ

「守りのガバナンス（必要条件）」と「攻めのガバナンス（十分条件）」への対応

### 4. 平成29年度ガバナンス研究部会の個別テーマ

年月日	個別定例テーマ	発表者	備考
H29/ 4・14	延々と続く東芝事件とコーポレートガバナンス 電通過労死問題ーガバナンス不在の組織の行き着く先ー	今井 井上	No. 231
5・19	パラダイムシフトにおける意思決定リスク考察 「攻め」のコーポレートガバナンス ～「企業責任の発達」への対応を考える～	永井（郁） 山本	No. 232
6・16	改正会社法の動向について（仮） 機関設計比較論ーどのガバナンスが優れているか	浜辺 井上	No. 233 総会・ 発表大会
7・14	監査役の倫理的価値観 企業統治に世間の良き慣行を取り入れる提案	今井 上原	No. 234
8・	休会	休会	休会
9・15	M&Aに見る日本企業の経営力の課題（その2） 乱立するガバナンス報告書～その内容と背景	中嶋 荻野	No. 235
10・20	英国のガバナンスの新しい動き～FRCによる投資家格付けなどについて 倫理観ある経営トップの育成、後継者計画について	林 勝田	No. 236
11・17	現代企業人の基層的規範意識と仏教ー（その2）日本仏教 公益通報者保護制度その後の動向（ガイドラインに対する企業の動向）	嶋多 河口	No. 237
12・22	改正会社法試案について（仮） 三様監査の連携の一層の深化を目指して	浜辺 板垣	No. 238
H30/ 1・19	監査役の果たすべき役割とその実践ーその2 組織学習と安全文化	山脇 日向	No. 239
2・16	社会課題としての消費者志向経営を考える～お客様第一を問う～ ファミリービジネスのガバナンスを巡って	古谷 永井（秀）	No. 240
3・16	経営倫理における仕組みと人 平成30年度部会ミッション・基本テーマ案及び個別テーマ案等検討	井上 全員	No. 241

場所：学生会館 4月、6月、7月は309号室、5月は310号室



## 平成 28 年度研究部会報告

(実証調査研究部会)

研究部会 メンバー	中野 千秋、井上 泉、梅津 光弘、大川 幸弘、小泉 耕一郎、高 巖、長塚 皓右、 野村 千佳子、*福永 晶彦、山田 敏之、横田理宇 (*印は部会長 計 11 名)
研究部会 設立年月	平成 7 年 (1995 年) 9 月
平成 28 年度 研究活動報告	<p>実証調査研究部会では平成 24 年度以来、Victor &amp; Cullen のモデルなどを中心に組織の倫理風土に関する研究会を積み重ねてきている。その中で、平成 28 年度の研究会においては、組織の倫理風土と倫理的行動（非倫理的行動）に関する先行研究のレビュー、非倫理的行動に関する測定指標や質問項目の検討を行ってきており、具体的な設問を考案する過程にあり、来年度には具体的な調査を行うまでに至る計画である。その調査では、欧米で多くの調査に使われているアーカーによる指標を元により我が国に望ましい測定指標を形成し、その有用性を検討する次第である。</p> <p>なお、調査部会は以下のように開催された。</p> <p>平成 28 年 6 月 26 日 14 時から 16 時 麗澤大学          平成 28 年 7 月 24 日 14 時から 16 時 麗澤大学          平成 28 年 9 月 18 日 14 時から 16 時 麗澤大学          平成 28 年 11 月 2 日 14 時から 16 時 麗澤大学          平成 28 年 12 月 29 日 14 時から 16 時 麗澤大学          平成 29 年 2 月 14 日 14 時から 16 時 麗澤大学          平成 29 年 3 月 17 日 14 時から 16 時 麗澤大学</p>
研究成果	
平成 29 年度 活動予定	測定指標の完成を図り、実際の調査を行い、その有効性の可否を考察することとする。 (以上、文責・福永晶彦)

# 平成28年度研究部会報告

( CSR 研究部会)

<p>研究部会 メンバー</p>	<p>蟻生俊夫(*), 平野琢、水尾順一、田中宏司、矢野友三郎、本橋潤子、昆政彦、阿部博人、大泉英隆、水上武彦、小池裕子、福田英男、馬越恵美子、小野芳幹、小林浩、山脇徹、宮川聡、新城修、福本ともみ、清水正道、井上昌美、斉藤全彦、福田隆、星野邦夫、岩根裕一、齋藤善成、萩原道雄、桜木君枝、高野一彦、明石雅史、横山恵子、山中裕、山田雅穂、桑山三恵子、吉田哲朗、シュレスタ・フパール・マン、西本宜義、熊谷謙一、村松邦子、加藤美香保、佐伯隆博、村井淳、斉藤智恵美、長谷川直哉、平塚直、高浦康有、田中信弘、中嶋康雄、西藤 輝、齋藤智文、古谷由紀子、枝川陽子、笹谷秀光、河口洋徳、荻野博司、藤澤 文、箕輪睦夫、松田千恵子、北村和敏、西井寿里、文載皓、小方信幸、殿崎正芳、川村雅彦、国谷史朗、林依利子、三嶋浩太、川瀬暁、大倉真紀、朝川俊成、金紋廷、林順一、櫻井功男、姜理恵、吉永兼一、三橋康市、八木専吉、片方恵子、大島昌子、長谷川浩司。</p> <p style="text-align: right;">(*印は会長 計 80名)</p>
<p>研究部会 設立年月</p>	<p style="text-align: center;">平成16年5月</p>
<p>平成28年度 研究活動 報告</p>	<p>毎月第2火曜日に電力中央研究所会議室（大手町）にて部会を開催するとともに、以下の活動を中心に行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部会メンバーによる事例・研究報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「経営理念の浸透方策に関するトップマネジメント・ヒアリング調査」(清水 正道; CCI研究所代表)</li> <li>・「企業理念とCSR活動」(三橋 康市; ハウス食品グループ本社株式会社)</li> <li>・「障害者差別解消法とCSR—Diversity and Inclusionの展望から」(山田 雅穂; 中央大学)</li> <li>・「役員構成の多様化と企業業績の関係についての計量研究」(小池 裕子; 開智国際大学リベラルアーツ学部)</li> <li>・「コンプライアンス経営と組織文化」(岩倉 秀雄; 雪印メグミルク株式会社)</li> <li>・「企業倫理と人材マネジメント」(本橋潤子; 産業能率大学)</li> <li>・「国連によるSDGs(持続可能な開発目標)採択とCSRへのインパクト」(古谷由紀子; サステナビリティ)</li> </ul> </li> <li>2. 部会メンバー以外による報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Responsible Investmentは主流となり得るか～克服すべき課題～」(北川哲雄; 青山学院大)</li> </ul> </li> <li>3. 企画セッション             <ul style="list-style-type: none"> <li>・『渋沢栄一に学ぶ「論語と算盤」の経営』の著者による執筆章の紹介(第1弾) (桑山三恵子、三嶋浩太、北村和敏、箕輪睦夫、平野琢)</li> <li>・『渋沢栄一に学ぶ「論語と算盤」の経営』の著者による執筆章の紹介(第2弾) (井上 潤、荻野博司、清水正道、平塚直、水本伸子、田中宏司)</li> </ul> </li> <li>4. CSR研修「二宮尊徳と報徳思想」の実施(10月19日)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・報徳博物館の見学と、博物館学芸員による「二宮尊徳と報徳思想」に関する講義の受講。</li> <li>・二宮神社、小田原城概観の見学を通じた報徳思想の生まれた時代背景の学習。</li> </ul> </li> <li>5. 日本経営倫理学会全国大会等における研究発表</li> <li>6. 経営倫理シンポジウムなど学会活動への協力</li> <li>7. その他(メンバー間の情報交換、BERCとの研究交流、講演・雑誌掲載によるCSRイニシアチブの普及など)</li> </ol>
<p>研究成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単行本『二宮尊徳に学ぶ、報徳の経営』(同友館出版)(※2018年度夏出版予定)</li> <li>2. 日本経営倫理学会誌第24号への投稿(笹谷秀光、吉田哲郎、林順一、田中信弘、古谷由紀子)</li> </ol>
<p>平成29年度 研究活動 予定</p>	<p>平成28年度の活動成果を踏まえ、平成29年度も毎月第2火曜日に電力中央研究所会議室（大手町）にて部会を開催し、以下の内容を中心として活動する予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各メンバーによる事例・研究報告</li> <li>2. 学会での研究発表</li> <li>3. 書籍出版企画(平成28年度より継続)</li> <li>4. CSR現場研修の実施</li> <li>5. その他</li> </ol>

## 平成28年度研究部会報告

(経営倫理教育研究部会)

研究部会 メンバー	梅津光弘 中谷常二 高浦康有 勝西良典 葉山彩蘭 鈴木由紀子 横山恵子 宮重徹也 古山英二 高田一樹 小山巖也 高野一彦 水村典弘 折戸洋子 川野祐二 潜道文子 村山元理 嶋根政充 武谷香 志野澄人 杉本俊介 * 岡部幸徳 <span style="float: right;">(* 印は会長 計22名)</span>
研究部会 設立年月	平成16年
平成28年度 研究活動 報告	<p>①平成27年度からの梅津会長からの部会活動方針持ち越し事項として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学を専門とする学会員に対する倫理学の勉強会の開催</li> <li>・倫理学を専門とする学会員に対する経営学の勉強会の開催</li> </ul> <p>の意向を受けて、本学会理事である中谷常二理事及び杉本俊介会員と共に哲学倫理学に関するオープンセミナーを9月10日に開催した。 「JABES 哲学・倫理学オープンセミナー—トロッコ問題で哲学する—」のタイトルで参加者を募った。学会員のみならずオープンに広く参加希望者を募集したことで近畿大学の学生や一般の方15名が参加した。 尚、セミナー講演については将来の本部会員の活用為に動画映像記録を残した。</p> <p>②本年度も前年度同様に10月に第7回CSR構想インゼミを行った</p>
研究成果	<p>①本年度は本研究部会及び日本経営倫理学会としても初めての試みとなる「オープンセミナー」を開催できたことが大きな1つの成果といえる。 対象者を学会員に限定せず、一般参加も可能とした勉強会の開催は、将来の本学会の会員増加へのひとつの方策となりえることが分かった。</p> <p>②詳細は別紙(高田理事報告参照)。</p>
平成29年度 研究活動 予定	<p>①平成29年度は本研究部会の本来の目的の1つである院生・学生などの若手研究者育成に関する活動を行う。研究の進め方、論議の書き方など学部生もしくは修士学生から参加できるようなドクトラルセッションなどの開催を検討する。 また、通例であった部会員及び院生による研究報告・討論会も開催計画を進める。</p> <p>②平成29年度も第7回CSR構想インゼミを開催予定である。</p>

# 平成28年度研究部会報告

( ESG投資研究部会)

<p>研究部会 メンバー</p>	<p>小方信幸*、高橋浩夫、梅津光弘、林順一、大沼久美、岡本伊万里、小澤彩子、姜理恵、北島純、木下靖朗、近藤成径、櫻井功男、笹谷秀光、長谷川浩司、松山将之、森敦子、森田充</p> <p style="text-align: right;">(*印は会長 計17名)</p>
<p>研究部会 設立年月</p>	<p>2017年1月19日 (2016年9月19日、日本経営倫理学会第151回理事会にて設立承認)</p>
<p>平成28年度 研究活動 報告</p>	<p>第1回例会は、2017年1月19日(木曜日、18:30-19:30)に大手町ファイナンシャルシティ3階会議室で開催した。出席者は14名であった。梅津会長にご挨拶をいただいたのち、参加者全員が研究テーマなどに触れつつ自己紹介を行った。林幹事より、本研究部会の会則、研究方針などについて説明がなされ、全会一致でこれらを承認した。</p> <p>2017年3月16日(木曜日、18:30-20:00)に開催した第2回例会では、ニッセイ・アセット・マネジメントの林寿和氏をゲストスピーカーとしてお招きし、「ESG投資の対象となる日本企業の属性分析」のテーマでご講演いただいた。林寿和氏はESGアナリストとして実務の第一線で活躍される一方、証券アナリストジャーナルなどにESG投資に関する実証研究の論文を数多く発表されており、ESG投資の領域における第一人者である。ESG投資研究の初心者も多く参加していたので、今回はESG投資研究の入り口という位置づけで、林氏にはESG投資全般にわたる基本課題を分かり易くご説明いただいた。</p>
<p>研究成果</p>	<p>当研究部会は2017年1月に設立してから間もないので、メンバーによる実証研究の成果を発表するには至っていない。しかし、第2回例会では、ゲストスピーカーである林寿和氏から、ESG投資における実証研究の可能性についてもお話をいただき、当研究部会が目指すべき方向について貴重な示唆を示していただいた。</p>
<p>平成29年度 研究活動 予定</p>	<p>2017年度は隔月で例会を開催し、研究部会メンバーによる統計的手法を用いた実証研究および事例研究の成果を発表とする場とし、メンバー間での活発な議論を行うことを目指す。</p> <p>5月の第1回例会では、2名の報告者が統計的手法を用いた、ESG投資に関する実証研究の成果を発表する予定である。</p> <p>第2回例会以降は、若手研究者を中心に研究発表を行う予定である。</p>

# 平成28年度研究部会報告

関西地区研究部会

研究部会 メンバー	大谷秀幸 加藤健二 山崎純一 八木俊輔 杉本俊介 島田 恒 西岡慶則 谷口 照三 * 吉川吉徳 西岡健夫 笠岡一之 西井寿里 高田一樹 永松博志 高田一樹 オランゲレル 足立 克之 吉川英一郎 * 剣持 浩 持松志保 劉 宏成 倉田 実 永松博史 狩俣正雄 中谷常二 平田 一郎 山中 裕 虫明洋一 他敬称略 *印は部会長&幹事、参加数約 25 名)
研究部会 設立年月	1995年10月
平成28年度 研究活動 報告	2016年4月9日 谷口照三氏(桃山学院大学) 演題 「内省的近代化」を文脈とするコーポレートガバナンス再考 ～経営学的・倫理的解釈の必要性和重要性～
	2016年7月28日 足立克之氏(大阪市立大学) 演題 取締役の行為規範としての利害関係者に対する利益考慮 (大阪市立大学大学院法科学研究科 修士論文)
	2016年12月3日 浦崎直浩氏(近畿大学) 演題 会計倫理教育の方法
	2017年2月4日 杉本俊介氏(大阪経済大学) 演題 内部告発問題に対する徳倫理的アプローチ ～ハーストハウスによる道徳的ジレンマの分析を応用する～
研究成果	谷口氏の論文は内省的近代化(Uirich Beckの手に負えない状況に陥る前にそれらの必然性と問題性を受け止め、改善方向を取れるべく思考と行動を導く斬新的な、スパイラルプロセス)をコーポレートガバナンスとの関連性で発表。足立氏の論文では企業の存在意義・会社法の目的から始まり、企業がCSRで利害関係者の利益考慮を行える法的根拠、取締役の利害関係者に対する利益考慮の行為基準、取締役の利害関係者に対する利益調整に対する判断基準等について私見を交えて発表だった。浦崎氏の論文では、エンロン(米)やオリンパスの粉飾決算、フォルクスワーゲン等の相次ぐ不祥事対策としての「会計倫理教育」の必要性を論述。アメリカ会計学会やオーストラリア勅許会計士協会、アレンズ他の倫理ジレンマ解決ステップ等紹介された。杉本氏の論文では内部告発の悲劇性・うしろめたさを論じ、正当性に関しては帰結主義や義務論よりも規範倫理学上、別の立場からとらえるのが妥当ではないかとの問題提起だった。ハーストハウスの徳倫理学立場からの道徳的ジレンマ分析も議論された。
平成29年度 研究活動 予定	2017年5月6日 永松博志氏(EUビジネススクール日本 演題 情報リテラシーと経営倫理(仮) 2017年7月 西岡慶則氏 演題 未定 2017年9月 山崎純一氏 演題 未定～丸亀市での出張学会～企業訪問あり 2018年1月 未定 演題 未定

## 2016 年度 中部地区研究会報告

2017 年 3 月 13 日

中部地区研究会 蕎麦谷 茂

研究部会 メンバー	青木 崇 荒尾一彦 伊藤 敦 岡部幸徳 小野 琢 神谷泰範 高田一樹、永木 義博 浜田吉司 濱村由佳 藤木善夫 堀田友三郎 水谷内徹也 *蕎麦谷 茂 (計 14 名 *は会長)
設立年月	2000 年 10 月 23 日
2016 年度 研究活動 報告	<p>2016 年度の中部地区研究会を、以下のとおり実施したので報告します。. (研究会参加者は 21(10)人、懇親会参加者は 14(4) 人 () 内は企業関係者)</p> <p>日時 2017 年 3 月 11 日(土) 14:00～17:30 場所 東海学園大学栄サテライトキャンパス (中日ビル 9 階) (内容)</p> <p>14:00-14:05 中部地区研究会長 挨拶 蕎麦谷 茂 (名古屋外国語大学) (発表・報告)</p> <p>14:10-15:10 第 1 報告「企業不祥事の事後的対応をめぐる経営者の意思決」 青木 崇 (兵庫県立大学) 司会・コメンテータ：神谷 泰範 (東邦ガス株式会社)</p> <p>15:10-16:10 第 2 報告「日本の CSR の源流～石門心学に学ぶこと～」 小野 琢 (愛知産業大学) 司会・コメンテータ；堀田 友三郎(東海学園大学)</p> <p>16:30-17:30 特別講演「企業を取り巻く不祥事と監査役監査活動の一事例」 山口 憲一 (トヨタテクニカルディベロップメント株式会社前監 査役・名古屋大学法科大学院客員教授)</p> <p>17:30-17:35 閉会の挨拶 堀田 友三郎 (東海学園大学) 総合司会：堀田 友三郎 (東海学園大学)</p>
研究成果	<p>最初の青木崇会員 (兵庫県立大学) の報告は、様々な不祥事を取り上げ経営者の危機管理能力と倫理的価値判断による意思決定が重要なカギになるとするもの。次の小野琢会員 (愛知産業大学) の報告は、知行一致を旨とした石田梅岩の教えは山城章の「経営自主体」論・KAE の原理に通じ、学ぶべきことが多いというものであった。最後のトヨタテクニカルディベロップメント株式会社前監査役・名古屋大学法科大学院の客員教授の山口憲一氏の特別講演は、実務者の観点から具体的に実際の知見が披露された。</p>
2017 年度 研究活動 予定	名古屋もしくは北陸での開催を視野に、なるだけ多くの会員が参加できるように工夫したい。

## 【別紙 2】

2017年3月29日

### 第6回 CSR 構想インターゼミナール開催報告

理事（インゼミ担当） 高田 一樹

10月7-8日に国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木）で、第6回 CSR 構想インターゼミナールを開催した。昨年度に引き続き日本経営倫理学会より経済支援を受けることが叶い、会員各位にはこの場を借りて感謝申しあげる。

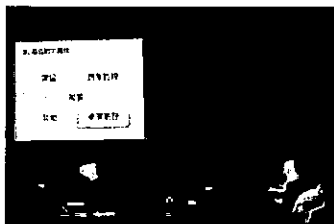
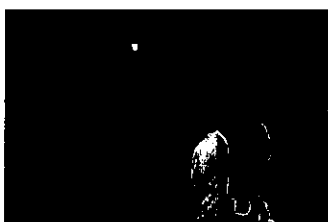
4月初旬より開催概要の公表し、7月末に募集を締め切った。申請時にはゼミの紹介、研究テーマと発表概要など詳述を求め、事務局の審査を経て次の7ゼミが参加した（発表順）。



- ・東北学院大学経営学部矢口義教ゼミ「観てけらいん——石巻の民宿を活かした地域活性化」
- ・淑徳大学経営学部葉山彩蘭ゼミ「東北3県プロジェクト——観光客の招致と地域復興の提案」
- ・跡見学園女子大学マネジメント学部宮崎正浩ゼミ「ファストファッションを変えるため——オーガニックコットンを普及させる新たなビジネスモデル」
- ・東北大学経済学部高浦康有ゼミ「震災の際の外国人への対応——多国籍対応避難所の必要性について」
- ・慶應義塾大学商学部梅津光弘ゼミ「熊本復興プロジェクト」
- ・関西大学社会安全学部高野一彦ゼミ「巨大災害を乗り越えるBCP——東日本大震災・熊本地震における企業の実態調査からの提言」
- ・獨協大学経済学部高安健一ゼミ「ミャンマーの栄養改善プロジェクト——スピルリナで母子の命を救え」

7日夕方より前夜祭を開いて学生同士で親睦を深め、8日午前から発表大会を開始した。教員12名、学生87名ほか参観者を含め、約100名が会場に集った。15分間の発表後には教員や学生から矢継ぎ早に質問の手が挙がった。今回から新たにポスター・セッションを企画し、研究関心と考察をまとめた1枚の模造紙を前に、学生が質疑応答に臨む機会を設けた。

審査結果は270点満点中、上位4ゼミが11点差にひしめく展開となった。最優秀賞を高安ゼミ、優秀賞を高浦ゼミが受賞したが、得点差はわずか1点だった。高安ゼミは初出場にして、学生大賞、ポスター・セッション賞も獲得し、3冠に輝いた。参加者の献身もあり、盛会のうちに幕を下ろしたことをここに報告する。



## 議題2. 平成28年度学会決算報告の件

平成28年度収支報告書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月末日

日本経営倫理学会

(単位：円)

	収支予算(A)	収支結果(B)	差異(B-A)
<b>1. 収入の部</b>			
学会年会費収入	3,800,000	4,004,000	204,000
特別収入	(920,000)	(1,211,008)	(291,008)
(1)年次総会収入	0	0	0
(2)研究発表大会収入	700,000	851,000	151,000
(3)交流例会・その他収入	150,000	260,008	110,008
(4)経営倫理シンポジウム収入	70,000	0	△ 70,000
(5)学術振興・催事収入	0	100,000	100,000
収入合計	4,720,000	5,215,008	495,008
<b>2. 支出の部</b>			
活動費用			
(1)年次総会費	0	0	0
(2)研究発表大会費	650,000	758,751	108,751
(3)交流例会・その他費用	130,000	343,512	213,512
(4)経営倫理シンポジウム費	300,000	25,000	△ 275,000
(5)部会活動補助金	320,000	280,000	△ 40,000
(6)国際交流費	50,000	22,132	△ 27,868
(7)CSR構想インターゼミ支援費	100,000	100,000	0
(8)学会誌・印刷費	950,000	1,137,240	187,240
(9)その他	10,000	0	△ 10,000
	2,510,000	2,666,635	156,635
学会運営費用			
(1)交通費	20,000	5,213	△ 14,787
(2)会議費	160,000	55,482	△ 104,518
(3)消耗品費	200,000	173,527	△ 26,473
(4)通信費	150,000	165,748	15,748
(5)印刷費	0	0	0
(6)発送費	50,000	42,558	△ 7,442
(7)パート・アルバイト費	0	0	0
(8)事務局経費(人件費含む)	1,440,000	1,440,000	0
(9)年会費	65,000	65,000	0
(10)HP費	50,000	4,838	△ 45,162
(11)口座振替関連費	60,000	66,095	6,095
(12)商標登録手数料	300,000	0	△ 300,000
(13)その他	15,000	11,020	△ 3,980
	2,510,000	2,029,481	△ 480,519
支出合計	5,020,000	4,696,116	△ 323,884
<b>3. 差 引(1-2)</b>	△ 300,000	518,892	818,892
<b>4. 前期繰越</b>	4,658,989	4,658,989	0
<b>5. 合 計(3+4)</b>	4,358,989	5,177,881	818,892
<b>6. 学術振興・催事準備金 特別会計組入れ</b>	0	△ 100,000	△ 100,000
<b>7. 次期繰越</b>	4,358,989	5,077,881	718,892



平成28年度貸借対照表  
平成29年3月末日現在  
日本経営倫理学会

(単位:円)

資産の部		負債・資本の部	
普通預金(みずほ銀行・麹町)	1,036,662		
現金	0		
普通預金(ゆうちょ銀行・海事ビル内)	5,585,868		
	6,622,530		
		資本の部	
		基金	500,000
		学術振興・催事準備金(特記1・2)	1,044,649
		次期繰越	5,077,881
			6,622,530
資産の部合計	6,622,530	負債・資本の部合計	6,622,530

特記1:学術振興・催事準備金の一部を取り崩し特別会計(別紙)に引当(50,216円)

特記2:次期繰越金の一部(100,000円)を学術振興・催事準備金へ組入れ

平成28年度 学術振興・催事準備金 特別会計  
日本経営倫理学会

(自:平成28年 4月 1日 至:平成29年3月末日)

(単位:円)

1. 前期繰越 学術振興・催事準備金	994,865
2. 収入(一般会計より組入れ)	100,000
3. 支出(学術振興・催事準備金より取崩し)	
2月21日 ガバナンス研究部会 年報作成補助金	50,000
2月21日 振込手数料	216 50,216
4. 差引き残高(1+2-3)	1,044,649

### 議題3. 監査報告の件

#### 監査報告書

平成29年4月17日

日本経営倫理学会  
会長 梅津 光弘 殿

日本経営倫理学会

監事 山本 正 

監事 山下 洋史 

監事 小方 信幸 

平成28年4月1日から平成29年3月末日までの平成28年度の活動及び会計の監査を行った結果次の通り報告する。

1. 理事会は適切に運用されていると認める。
2. 活動報告書の内容は真実であると認める。
3. 収支報告書、貸借対照表および学術振興・催事準備金特別会計は会計帳簿の記載金額と一致し、収支および財産の状況を正しく示していると認める。

以上

## 議題 4. 平成 29 年度学会活動計画（案）審議の件

### 平成 29 年度学会活動計画（案）

#### 1. 定時基本会合開催の件

- 1) 年次総会の開催 平成 29 年 6 月 24 日（土）13:00～14:00  
於 慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール
- 2) 研究発表大会の開催 平成 29 年 6 月 24 日（土）25 日（日）  
会場：慶應義塾大学三田キャンパス 北館  
統一論題：「経営倫理の過去・現在・未来」
- 3) 理事会の開催 必要に応じ随時

#### 2. 研究交流活動計画の件

- 1) 研究交流例会の開催 平成 29 年 4 月、9 月、11 月、平成 30 年 1 月  
\* 研究交流例会の一層の活性化を目指し前年度に引き続きテーマに則した内外講師の招聘を検討する
- 2) 関西・中部各地区研究部会の開催 随時年 1～4 回

#### 3. 研究部会の開催の件

- 1) 理念哲学研究部会
- 2) 企業行動研究部会
- 3) ガバナンス研究部会
- 4) 実証調査研究部会
- 5) CSR 研究部会
- 6) 経営倫理教育研究部会
- 7) ESG 投資研究部会

上記の研究部会活動ならびに地方地区研究部会活動を推進して各分野に関する研究を深め、夫々の進展に応じて取りまとめを目指す。（別紙 1 参照）

#### 4. 学会報・学会誌の発行の件

平成 28 年度に引き続き学会報を年 3～4 回のペースで発行する。また学会誌（第 25 号）を平成 30 年春を目指して発刊する。

#### 5. 国際交流活動の推進の件

国際交流活動を促進する。

#### 6. 第 9 回経営倫理シンポジウム開催の件

グローバルな視点から経営倫理や CSR について考えるシンポジウムを開催する。

#### 7. 学生の経営倫理意識向上への支援の件

平成 28 年度に引き続き CSR 構想インターゼミナールを後援する。

#### 8. 経営倫理実践研究センターおよび日本経営倫理士協会への協力

#### 9. その他

以上

# 議題5. 平成29年度学会予算(案)審議の件

平成29年度予算(案)  
自 平成29年4月 1日  
至 平成30年3月末日  
日本経営倫理学会

(単位：円)

	H27実績(A)	H28実績(B)	H29予算案(C)	差異(C-B)
<b>1. 収入の部</b>				
学会年会費収入	3,758,000	4,004,000	3,900,000	△ 104,000
活動収入	(1,278,180)	(1,211,008)	(1,190,000)	(△21,008)
(1)年次総会収入	0	0	0	0
(2)研究発表大会収入	908,000	851,000	890,000	39,000
(3)交流例会・その他収入	122,680	260,008	200,000	△ 60,008
(4)経営倫理シンポジウム収入	147,500	0	100,000	100,000
(5)学術振興・催事収入	100,000	100,000	0	△ 100,000
収入合計	5,036,180	5,215,008	5,090,000	△ 125,008
<b>2. 支出の部</b>				
活動費用				
(1)年次総会費	0	0	0	0
(2)研究発表大会費	636,789	758,751	1,150,000	391,249
(3)交流例会・その他費用	90,501	343,512	140,000	△ 203,512
(4)経営倫理シンポジウム費	408,876	25,000	100,000	75,000
(5)部会活動補助金	280,000	280,000	360,000	80,000
(6)国際交流費	42,739	22,132	50,000	27,868
(7)CSR構想インターゼミ支援費	100,000	100,000	100,000	0
(8)学会誌・印刷費		1,137,240	950,000	△ 187,240
(9)その他	3,024	0	10,000	10,000
	1,561,929	2,666,635	2,860,000	193,365
学会運営費用				
(1)交通費	22,431	5,213	10,000	4,787
(2)会議費	159,920	55,482	150,000	94,518
(3)消耗品費	198,893	173,527	170,000	△ 3,527
(4)通信費	142,787	165,748	160,000	△ 5,748
(5)印刷費	758,160	0	200,000	200,000
(6)発送費	41,656	42,558	50,000	7,442
(7)パート・アルバイト費	25,000	0	0	0
(8)事務局経費(人件費含む)	1,440,000	1,440,000	1,800,000	360,000
(9)年会費	65,000	65,000	65,000	0
(10)HP費	4,838	4,838	100,000	95,162
(11)口座振替関連費	48,567	66,095	70,000	3,905
(12)商標登録手数料		0	300,000	300,000
(13)その他	11,560	11,020	15,000	3,980
	2,918,812	2,029,481	3,090,000	1,060,519
支出合計	4,480,741	4,696,116	5,950,000	1,253,884
<b>3. 差 引(1-2)</b>	555,439	518,892	△ 860,000	△ 1,378,892
<b>4. 前期繰越</b>	4,203,550	4,658,989	5,077,881	418,892
<b>5. 合 計(3+4)</b>	4,758,989	5,177,881	4,217,881	△ 960,000
<b>6. 学術振興・催事準備金特別会計組入</b>	△ 100,000	△ 100,000	0	100,000
<b>7. 次期繰越</b>	4,658,989	5,077,881	4,217,881	△ 860,000

## 議題 6. 会則変更の件（案）

会則の改定につき以下の通り提案する。

### 1. 第2条（事務所）の変更

【変更前】

#### 第1章 総 則

（事務所）

第2条 本学会は主たる事務所を東京都千代田区に置く。

【変更後】

#### 第1章 総 則

（事務所）

第2条 本学会は主たる事務所を東京都港区に置く。

### 2. 第28条（資産の運用管理）の変更

【変更前】

#### 第5章 資 産 及 び 会 計

（資産の運用管理）

第28条 本学会の資産は会長が管理し、その方法は理事会の決議による。

【変更後】

#### 第5章 資 産 及 び 会 計

（資産の運用管理）

第28条 本学会の資産は会長が管理し、その方法は理事会の決議による。

2. 商標権は会長が申請し取得する。会長に交代ある時はこれを順次譲渡する。

以上

## 議題 7. 役員改選の件（案）

平成29・30年度役員（理事・監事）候補者

（50音順）

### < 理事候補 >

蟻生 俊夫	電力中央研究所社会経済研究所
井上 泉	ジャパンリスクソリューション
今井 祐	今井経済・経営研究所
梅津 光弘	慶應義塾大学
小方 信幸	帝京平成大学
岡部 幸徳	金沢工業大学
荻野 博司	東洋学園大学
勝田 和行	日本エマージェンシーアシスタンス
狩俣 正雄	滋慶医療科学大学院大学
河口 洋徳	経営倫理実践研究センター
剣持 浩	神戸学院大学
小山 巖也	関東学院大学
笹谷 秀光	伊藤園
潜道 文子	拓殖大学
蕎麦谷 茂	名古屋外国語大学
高 巖	麗澤大学
高浦 康有	東北大学
高田 一樹	南山大学
高野 一彦	関西大学
出見世信之	明治大学
中谷 常二	近畿大学
中野 千秋	麗澤大学
野村千佳子	山梨学院大学
浜辺陽一郎	青山学院大学大学院
葉山 彩蘭	淑徳大学
馬越恵美子	桜美林大学
松田千恵子	首都大学東京
水尾 順一	駿河台大学
村山 元理	常磐大学
文 載皓	常葉大学

### < 監事候補 >

山下 洋史	明治大学
山本 正	ディレクトフォース
劉 慶紅	立命館大学

以上